

# 西海ブロック水産業情報

NO. 83 (平成25年10月～12月)

## 増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>(筑前)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カキ養殖: これまでの大きなへい死もなく、生産も順調に推移している。</li> <li>・ワカメ養殖: 11月中旬以降、隔地で養殖が開始され、12月末時点で生育は順調。</li> <li>・フトモズク養殖: 年明け1月から各地で海上養殖を開始予定。3月下旬初摘採の見込み(有明)</li> <li>・ノリ養殖: 10/19からノリ養殖の採苗開始。採苗前後に台風(24号、27号)が接近したが、幸いにも大きな被害はなく、作業は順調に進んだ。初摘採は11/12から始まり、秋芽生産は12/21まで行われた。摘採回数は4～5回。生産枚数: 約3.8億枚(平年比99%)、平均単価: 9.64円/枚(平年より0.63円安)、生産金額: 約36.3億円(平年比92%)であった。また、冷凍網の出庫が12/26から開始され、色調や戻りは概ね順調であった。(豊前)</li> <li>カキ養殖: 全体的に小ぶりだが平年より付着数が多く豊漁。南部漁場では平年より成長、身入りとも良好で豊漁。</li> <li>ノリ養殖: 2経営体が養殖。12月上旬から摘採。海況等に問題なし。</li> </ul>	<p>【タイラギ】</p> <p>平成25年10月に実施した55点調査の結果、平成25年度漁期の漁獲対象となる成貝が極端に少なかったことから、本年度のタイラギ潜水器漁業は、前年度に引き続き休漁となった。</p> <p>【マガキ養殖】</p> <p>平成25年11月に実施した収量調査の結果から、今後順調に推移すれば、約70トンの収量が見込めることが分かった。また、身入りが非常に良好(昨年同時期の20%増)であることから、昨年より約1ヶ月早い11月21日の口開けとなった。</p> <p>【ノリ養殖】</p> <p>採苗は、昨年よりも3日遅い10月19日から開始され、22日にはほぼ終了した。育苗期のノリ芽は、例年より生長が早く、芽の痛みや異形芽も少なく順調に生長した。冷凍入庫は、11月12日に本格化し、11月19日までにほぼ完了した。秋芽網期の摘採は、11月22日からほぼ全漁場で開始され、12月23日まで行われた。秋芽網期の生産枚数・金額・平均単価は、約6.1億枚、約68.7億円、11.19円/枚であった。冷凍網の出庫は、12月26日から開始された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○標識放流 ホシガレイ(全長128～193mm)、2.5万尾、有明海)</li> <li>○放流魚追跡調査 トラフグ、クエ、クルマエビ、ガザミ、ホシガレイ他について追跡調査を実施</li> <li>○養殖魚類の育種技術開発研究事業 【トラフグ】代理親魚技術によるトラフグYY雄作出試験実施中。優良親魚候補(早熟・高成長)由来種苗の形質評価試験実施中。</li> <li>【ホシガレイ】偽雄化処理魚の後代検定魚を中間育成中。</li> <li>○良質な種苗の生産技術開発研究事業 【クエ】26万尾の稚魚を生産(生残率54%)</li> <li>【クロマグロ】5千5百尾を生産</li> <li>○クロマグロの種苗生産に向けた飼養技術の高度化(プロジェクト研究)</li> <li>【クロマグロ】シロギス幼魚・親魚の継続飼育中。</li> <li>○貝類養殖試験研究 タイラギ、マガキの養殖試験・調査等を実施中。</li> </ul>	<p>○特に目立った魚病等の発生・被害なし</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アカアマダイ種苗生産予備試験 10月下旬、天然魚8尾にホルモン打注を行い、雌3尾から約4.8万粒を採卵した。精子は鮮魚4尾から抽出したものを使用した。媒精後、浮上卵、約2.2万粒を種苗生産試験に供試した。仔稚魚飼育には5KL角形コンクリート水槽を使用した。餌料は日齢に応じてS型ワムシ、アルテミア、配合飼料を給餌した。ふ化仔魚の収容尾数は4500尾(ふ化率20.1%)、51日間の飼育で合計76尾(平均全長23.0mm)の稚魚を取り上げた(生残率1.7%)</li> <li>○藻類現場養殖試験 12月上旬から県内4地区において、ワカメ養殖試験を開始。成長、生残、食害防止効果等について観察中。</li> </ul>		